

科目名	人の死を考える法医学の魅力にせまる
-----	-------------------

担 当 責任者	山本琢磨	所属	法医学	職名	准教授
------------	------	----	-----	----	-----

到達目標 (アウトカム)	人が亡くなった際に何ができるのか、平時から考える習慣を身につける
-----------------	----------------------------------

【1. 授業概要】

人はいつか必ず亡くなる。生きている人にとって、死は終わりである。では、人の死から得られるものはないのだろうか？法医学では、亡くなった方がなぜ亡くなったのかを日々考えている。死は終わりではあるが、一方で必ずしも終わりではないと感じることもある。本講義では、人の死から何を考えるのか、様々な立場から考察したい。医学生として、医療人として、あるいは患者本人、その家族、立場によって死への思いは異なる。それぞれの立場を理解しつつ、将来医師として死に直面した時に、何を考え何ができるのか、本講義を通して死について皆さんと考えてみたい。具体的には、実際の解剖症例について、死因の診断や防ぐことができなかったのか、またこの先どうすべきかを、グループごとに話し合い発表することを考えている。

【2. 履修学生の心構え】

履修条件：「死に対して真剣に考えられること」
 生きている方に対して「死」を避けることは、治療や急変対応など様々なところで学習するし、医師になってからも経験しない人はいない。一方で、一旦「死」を迎えると、亡くなった方に対して何ができるのか、何をすべきかを学ぶ機会は少なく、深く考えることもないかもしれない。亡くなった方の「死」に対し一度くらい真剣に考える機会があっても良いのかもかもしれない。

事前準備：「詳細な知識は必要ありません」
 臨床科目は未履修であるため、疾患についての予習は必要ありません。一方で、履修済みの基礎科目については死因診断に必要な事柄も多く、一般的な内容については再確認しておいてください。とくに肉眼解剖学に関しては正常構造を頭にいれたうえで各症例と対比しますので、重要になります。ただ、未履修部分については知識量も異なりますので、必要なことについては都度確認・補充していく予定です。受講人数にもよりますが、グループ毎での討論・発表を考えていますので、積極的な姿勢と協調性が必要になります。

【3. 成績の評価方法・基準】

討論の積極性、発表の準備を重視します。毎回の講義でスライド作成および講義後にレポートを課します。グループのメンバー間での相互評価を行うこともあります。授業への積極的な姿勢（20%）、発表の準備（30%）、課題（30%）その他（20%）。

【4. 教科書・参考書】

手持ちの解剖学の教科書があれば、他は特に指定しません。必要なものは準備します。

【5. その他 履修要件、履修者へのコメント等】

将来の進路に法医学を考えている方はもちろんですが、全く興味がない方こそ、人生で一度くらい法医学に接してみるのも良いかもしれません。グループ発表はパワーポイント等を用いたプレゼンテーションを予定しています。少し慣れているとスムーズかもしれませんが、必須ではありません。

授 業 計 画 【 水 曜 開 講 分 用 】

実施日	時 限	講義・実習内容	担 当 教 員		
			氏 名	職 名	所 属
4/15	水 5	症例提示①なぜ亡くなった？－法医学の奥深さ－	山本琢磨	准教授	法医学
4/22	水 5	発表①	山本琢磨	准教授	法医学
5/13	水 5	症例提示②喧嘩中の突然死－解剖学の復習－	山本琢磨	准教授	法医学
5/20	水 5	発表②	山本琢磨	准教授	法医学
6/10	水 5	症例提示③ある損傷死をめぐって－生理学・解剖学の復習－	山本琢磨	准教授	法医学
6/17	水 5	発表③	山本琢磨	准教授	法医学
6/24	水 5	症例提示④ある突然死をめぐって－生化学・遺伝学の復習－	山本琢磨	准教授	法医学
7/1	水 5	総括	山本琢磨	准教授	法医学

